

# 「郵政」友だちの友だちは…



# 民主党議員を激怒させた高圧的文言

## 参院自民が廃止要求! 「規制改革会議」を巡る宮内義彦の手紙

（憶測により事実を殊更に誇張、歪曲した不適切な質疑により、国民に対し多大なる誤解を与え……）

そんな激烈な文言で始まるオリックスの宮内義彦会長（当時は政府の総合規制

改革会議議長）からの「手紙」を受け取ったのは、民主党の城島光力（旧名・正光）前衆院議員。

その約1カ月前の03年5月、労働者派遣法改正を審議していた衆院厚生労働委員会では「ザ・オール」の奥谷禮子社長ら人材派遣業者が同会議のメンバーになっていることやオリックスが同社の株主である点を指摘

「変な談合よりもつとひどい構図ではないか」「メンバーとして意見を言いながら、結果として（派遣）業界利益につながるの（は明らか）」と、坂口力厚生労働相（当時）らを追及したのだ。

奥谷氏は議員会館の部屋に来て一方的にまくし立てた後、私の処分や発言の議事録からの削除を求める「通知書」を厚労委員長に送

りました。そして間もなく、宮内氏からの抗議文も郵送されてきたのです

抗議文の内容はというと（委員の選出は（略）「優れた識見を有する者のうちから、内閣総理大臣が任命する」とされている。全ての産業の代表をバランスよく選出すること自体が会議の趣旨に反する）「オリックスなどが利益を得る目的で、人材派遣業、ひいてはザ・オール

の利益になるような規制緩和が実現するような提言を総合規制改革会議が行うよう誘導していると思わせる内容で発言をされている。誘導するなどありえないし、規制改革は既得権

益を打破し、全ての国民に選択の自由を与えるもの」とし、（委員構成や委員個人への些細な事実をあげへつらい、規制改革の反対とするなどは本来有り得べきではない）と結んでいる。

「最高権力者」が送りつけた抗議文

「奥谷氏は議員会館の部屋に来て一方的にまくし立てた後、私の処分や発言の議事録からの削除を求める『通知書』を厚労委員長に送

りました。そして間もなく、宮内氏からの抗議文も郵送されてきたのです

「権力をカサにきた高圧的な態度で、『国会議員』ときが何だ」と言わんばかりの「上から目線」を感じましたね（城島氏）

いわば「庄力手紙」だったというのだ。結局、厚労委理事会は奥谷氏の通知書について「見当外れで、委員会に対する不当な干渉とも受け取れる。到底受け入れられない」とする見解をまとめて事態は収まったが、城島氏は今も、こう憤る。

「当時、ある閣僚経験者から『宮内は今、日本の最高権力者だ。戦っていいことはないよ』と、ありがたい忠告

を受けましたが、同時に、奥谷、宮内両氏の行為は国会や民主主義に対する挑戦だと痛感しました。政府機関のメンバーになるならば、会社の代表権くらい返上すべきではないでしょうか」

本誌は奥谷、宮内両氏に取材申し入れをしたが、奥谷氏は「出張中で、物理的にお答えする時間がない」（ザ・オール）とし、宮内氏からは回答がなかった。

折しも1月30日の参院本会議の代表質問で、尾辻秀久・自民党参院議員会長が総合規制改革会議の後身の「規制改革会議」（議長・草刈隆郎日本郵船会長）の廃止を麻生太郎首相に公然と要求し、時代の潮目が変わったことを印象づけた。

「最高権力者」の落日は、やって来るのだろうか。

本誌・青木英一

本誌・青木英一

城島正光 殿  
 貴会が1月30日の参院本会議で、総合規制改革会議の後身の「規制改革会議」の設立を要求されたことについて、私は大変遺憾に思っています。貴会が1月30日の参院本会議で、総合規制改革会議の後身の「規制改革会議」の設立を要求されたことについて、私は大変遺憾に思っています。貴会が1月30日の参院本会議で、総合規制改革会議の後身の「規制改革会議」の設立を要求されたことについて、私は大変遺憾に思っています。



奥谷禮子氏